

# プレス・リリース

## 西サハラ若手活動家 ターレブ・アリー・サーレム氏 来日記者会見

主催・西サハラ友の会  
2025 年 11 月 5 日（水）16:00-18:00  
場所・会見場（日本プレスセンタービル 9F）  
東京都千代田区内幸町 2-2-1

言語：スペイン語（日本語逐次通訳あり）

Key Words 非植民地化、自決権、占領、人権、天然資源に対する恒久主権、国連、米国、EU、日本

### ■なぜ、西サハラなのか ～「アフリカ最後の植民地」をめぐる国際政治

西サハラは「アフリカ最後の植民地」と言われる北アフリカの旧スペイン領で、国連憲章に言う「非自治地域」です。西サハラ人民は自決権を有します。1975 年、国連が進めていた非植民地化の途上、モロッコとモーリタニアの軍事侵攻を受け、モーリタニアは撤退しますが、モロッコが現在までその領土の 8 割を占領し続けています。国連安保理は 1991 年に住民投票を決議しましたが、モロッコのサボタージュにより実施されていません。

西サハラの人びと（サハラウィ）はアルジェリアの難民キャンプを拠点に「サハラ・アラブ民主共和国」の樹立を宣言して独立運動を続け、西サハラ占領地では非暴力の抵抗が続いています。

また、占領地では天然資源（リン鉱石）の採掘、農園開発、漁業、観光、再生可能エネルギー事業がサハラウィを周縁に迫っています（天然資源に対する恒久主権に抵触）。日本は西サハラ産リン鉱石を輸入する数少ない先進国で、西サハラ産タコを「モロッコ産」として輸入しています。また、モロッコとの漁業協定で日本漁船が西サハラ海域で漁ができるようになっています。

### ■なぜ、若手活動家なのか ～新世代の登場と紛争のダイナミックス

1975 年のモロッコ侵攻の際子供だった、あるいは生まれていなかったサハラウィたちは、難民キャンプで、占領地で、そして海外で独立に向けた活動を続けています。占領地では非暴力でモロッコの警察・軍に立ち向かう、あるいは危険をかくぐって海外に情報を伝える若者たちがいます。海外では、弁論を武器に直接またはインターネットを使って世論に訴えています。

モロッコはサハラウィを「モロッコ人」として教育し、弾圧・脅迫と懐柔策を組み合わせることで、独立運動を潰せると考えました。しかし、モロッコの試みは 50 年経った今、失敗したと言わざるをえません。サハラウィのアイデンティティと民族解放への熱い思いは世代を超えて継承されています。

### ■西サハラ全国キャラバン 2025 で来日

ターレブさんは、11 月 4～20 日、東京、札幌、宇都宮、名古屋、京都、大阪、福岡をまわる講演ツアーを行うため、西サハラ友の会の招へいで初来日します。全国 10 ヶ所以上で講演します。

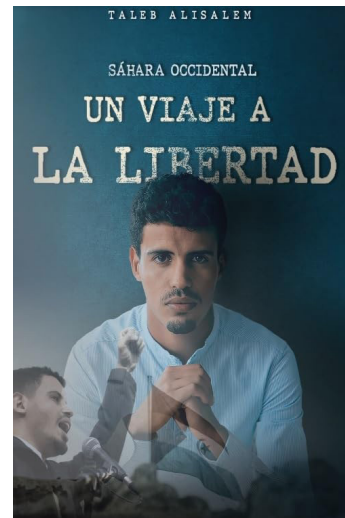


Taleb Ali Salem

### プロフィール

- 名前 : Taleb Ali Salem (ターレブ・アリー・サーレム)
- 肩書き : サハラウィ活動家、西サハラ・アフリカ・中東問題政治分析家
- 生年・生地 : 1992年6月、アルジェリア・サハラウィ難民キャンプ生まれ、2003年からスペイン在住。
- 教育 : 2010年スペイン国立通信教育大学に入学、その後英国オープンユニバーシティで国際協力・開発学を学ぶ(2014年～2016年)。現在、課程を中断している。
- 受賞 : 2022年と2023年、「サハラウィジャーナリスト・作家・知識人組合(UPEs)」から「サハラウィの大義の国際化(Internationalization of the Saharawi Cause)」賞を受賞。
- 著書 : 右参照。
- 活動 : 2022年6月、英国議会の西サハラ議員グループ主催講演会で講演。また、スイス国会の西サハラ議員グループ講演会でも講演。  
・スペイン各地の大学、ベルリン自由大学、オポルト大学(ポルトガル)などで講演。  
・TVE(スペイン)、France24、ABCなどに出演。新聞インタビュー多数。  
・2024年6月、国連非植民地化特別委員会の公聴会で西サハラについて意見陳述を行う。

著書『西サハラー自由への旅』



*Sáhara Occidental. Un viaje a la libertad* (Western Sahara - A Journey to Freedom), Ecobook – Editorial del Economista, 2023.

### ■ 3度目の正直なるか？

サハラウィによる記者会見は過去2度試みて、実現しませんでした。最初は2023年11月、ポリサリオ戦線外交部アジア局長が来日する予定で記者会見を準備していましたが、日本政府がビザを発給せず、来日そのものができませんでした。理由は説明されませんでした。

次に、今年8月横浜でのTICAD9に出席したサハラウィ外交団(首相・外相・AU大使)は来日早々、会議以外に記者会見、議員との面会、市民社会とのイベントなど一切行わないよう日本政府外務省より圧力がかかり、すでに発表されていた日本記者クラブでの会見をキャンセルせざるをえませんでした。

この会見キャンセルについては、『日本記者クラブ会報』(9月10日)の江木慎吾専務理事による巻頭エッセー「実現しなかった記者会見『壁』について考えた8月」をご覧ください。また、岩崎有一氏(アジアプレス)「西サハラのタブー化に加担する日本外交の異様(1)~(4)」(2025年9月9日他)に詳しい経緯が書かれています。

### <問い合わせ先> 西サハラ友の会

2019年に設立された市民の団体。代表は勝俣誠(明治学院大学名誉教授)。事務局長は松野明久(大阪大学名誉教授)。

Website: <https://fwsjp.org>  
Email: [info@fwsjp.org](mailto:info@fwsjp.org)  
Tel. 090-3272-4383 (松野)